

都市再生整備計画

うめきた^{きちく}2期地区

おおさかふ おおさかし
大阪府 大阪市

令和4年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input checked="" type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	大阪府	市町村名	おおさか 大阪市	地区名	うめきた2期地区	面積	14.1	ha
計画期間	令和	4	年度	～	令和	8	年度	
					交付期間	令和	4	年度
						～	令和	8
							年度	

目標

大目標：関西の発展を牽引する地区として、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点を目指したまちづくり

目標1:「みどり」を体感できる空間づくり

目標2: 歩く楽しみ・喜びを創造するまちづくり

目標3: 速やかに災害から復元できるまちづくり

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

一日の乗降客数が約240万人と西日本最大の交通ターミナルである大阪駅周辺において、JR大阪駅北側に広がる約24haのうめきた(大阪駅北地区)は、大阪はもとより関西の都市再生をリードする新しい拠点となることが期待されている。平成16年に取りまとめた「大阪駅北地区まちづくり基本計画」に基づき、地区東側の先行開発地区(約7ha)において、平成25年に「グランフロント大阪」が開業している。空間整備にあたっては、全体にわたって、ゆとりとうるおいのある都市空間の形成を図り、公民連携による、一体的でより質の高い公共空間・公共的空間が整備されている。

地区西側の2期地区(約17ha)においては、平成27年に「うめきた2期区域 まちづくりの方針」を策定し、関西の発展を牽引する地区として、『みどり』と『イノベーション』の融合拠点を目指すことを目標に位置付けている。

平成27年度から、2期地区の土地区画整理事業がすすめられ、平成30年度に開発事業者が決定、令和元年度に地区中央の都市公園の都市計画決定、令和2年度に都市再生特別地区等の都市計画決定を行っている。

空間整備にあたっては、中央部に位置する約4.5haの都市計画公園大深町公園を含め、世界に比類なき魅力を備えた「みどり」を約8ha確保し、「みどり」を中心とした公共空間等を一体的に活用し、管理運営するとしている。

また、東西軸は「賑わい軸」として2期区域の「みどり」を体感できるよう配慮しながら、華やかで賑わいのある空間を形成するとともに、南北街区にまたがる「みどり」の一体性、連続性の確保を図る。南北軸は「シンボル軸」として2期区域の「みどり」と一体となり、水と緑を配置したゆとりのある歩行者空間を形成する。

これらの都市空間を、開発事業者が設立したエリアマネジメント組織が、自らの創意工夫により、自立的かつ持続的に、地区全体の一体的な維持管理（清掃、点検、補修、巡回等）を行う。

※「みどり」:すべての人々に開かれ、誰もが自由にアクセスでき、そこで人間の活動が豊かに展開される緑豊かなオープンスペース

課題

・単なるまちなかの公園の確保にどとまらず、未来に向けた都市や人間と自然、環境との新しい関係性を構築し、比類なき魅力を備え、都市の文化となる新しいまちづくりの概念としての「みどり」の実現。（骨格、使いこなし、波及効果）

地区の骨格となる「シンボル軸」に「にぎわい軸」においては、広幅員歩道が整備されるため魅力ある景観形成と回遊性の向上に向けて、先行開発区域との連続性にも配慮し、賑わいのある快適な歩行者空間の充実

うめきた2期区域まちづくりの方針(H27.3 大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域都市再生緊急整備協議会会議 大阪駅周辺地域部会 策定)

◆目標1:「みどり」を体感できる空間づくり に関連する事項

・東西軸は「賑わい軸」として、2期区域の「みどり」を体感できるよう配慮しながら、華やかで賑わいのある空間を形成する。

・南・北街区にまたがる「みどり」の一体性・連続性を確保する。

- ・南北軸は、2期区域の「みどり」と一体となり、ゆとりのある歩行者空間を形成するとともに、沿道に賑わいを持たせる工夫を行う。

◆目標2:歩く楽しみ・喜びを創造するまちづくり に関連する事項

・「歩行者中心」のまちとし、自由に楽しみながら移動できる、周辺地域と連続的なネットワークや回遊性のある重層的な歩行者ネットワークを形成する。

◆目標3:速やかに災害から復元できるまちづくり に関連する事項

・まとまった「みどり」としての大深町公園は、日常の機能、使い方を優先した空間デザインとしつつ、災害時には防災機能を発揮できる空間とする。

- ・大規模災害時においても経済活動を継続できるよう、エネルギーインフラの耐震性の強化と代替性の確保を図るなどの工夫を行う。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
街全体の魅力度	%	街全体が魅力的であると感じる人の割合（アンケート）	「みどり」を体感できる空間づくりや、歩く楽しみ、喜びの創造、防災性の向上により、街全体の魅力度が保たれる。	65%	平成25年度	75%	令和8年度
公園の利用者数	人/12時間	「みどり」での活動の中心となる公園の休日（平時）の利用者数を実測	高質な公園や歩行者ネットワークの整備により、賑わいと快適性を有する公園利用者数が維持できる。	1,800人	平成26年度	従前値＋2%	令和8年度
歩行者交通量	人/12時間	道路占用許可特例の対象となる歩道（駅北1号線）の歩行者交通量を実測	賑わい創出や円滑な交通環境整備により、歩行者交通量が維持できる。	28,306人	令和元年度	従前値＋2%	令和8年度

計画区域の整備方針	
◆目標1:「みどり」を体感できる空間づくり に関連する事項 <ul style="list-style-type: none">・南北の都市公園をつなぐ立体遊歩道を整備し、「みどり」の一体利用を実現する。・東西軸は、隣接する都市公園と機能面・景観面での一体性を確保するとともに、うめきた先行開発地区と地区西側に繋がる賑わい軸として整備する。	【関連事業】 立体遊歩道の整備・管理 大深町(うめきた2期)地区防災公園街区整備事業 大阪駅北大深西地区土地区画整理事業
◆目標2:歩く楽しみ・喜びを創造するまちづくり に関連する事項 <ul style="list-style-type: none">・重層的かつ回遊性の高い歩行者ネットワークを形成し、歩行者の円滑な移動を誘導する。	【関連事業】 立体遊歩道の整備・管理 大深町(うめきた2期)地区防災公園街区整備事業 大阪駅北大深西地区土地区画整理事業
◆目標3:速やかに災害から復元できるまちづくり に関連する事項 <ul style="list-style-type: none">・防災公園としての機能を最大限に活かすための動線機能を整備する。・周辺地域と協力しながら広域避難場所としての機能を確保する。・地域冷暖房・地中熱・下水熱埋設管を設置するなど、地区全体のBCP対応機能を展開する。	【関連事業】 立体遊歩道の整備・管理 大深町(うめきた2期)地区防災公園街区整備事業 大阪駅北大深西地区土地区画整理事業
その他	
<p>＜持続的な管理・運営のための取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none">・民間開発事業者が2023年度にエリアマネジメントを行うエリアマネジメント組織を設立、2025年度に都市再生推進法人の指定を目指す。・都市公園部分については、指定管理者(50年間)制度により上記エリアマネジメント組織を中心とする主体が管理。・将来的に先行開発区域のTMOとエリアマネジメント組織、指定管理者によるうめきた区域の一体的なエリアマネジメントを目指す。・環境負荷の少ないエネルギーシステムを導入する	

うめきた2期地区(大阪府大阪市)	面積	14.1	ha	区域	大深町
------------------	----	------	----	----	-----

